



理工学部教員・大学院生らが  
「理工系の魅力と希望 —女性ロールモデルと考えよう！—」  
において講演と体験実験を実施

**【概要】**

理工学部教員・大学院生ら8名が、2023年9月9日(土)に基山町民会館にて開催された「理工系の魅力と希望 —女性ロールモデルと考えよう！—」において講演と体験実験を実施しました。

**【本文】**

2023年9月9日(土)に、理工学部化学部門の大竹 亜紗美 助教、海洋エネルギー研究所の鶴 若菜 助教、先進健康科学研究科先進健康科学専攻博士前期課程1年 安達 結生 さん、ダイバーシティ推進室 荒木 薫 助教、理工学部機械工学部門 佐藤 和也 教授が基山町民会館で開催された「理工系の魅力と希望 —女性ロールモデルと考えよう！—」(主催：内閣府、共催：佐賀大学理工学部・佐賀大学ダイバーシティ推進室)にてそれぞれ講演を行いました。大竹助教は「国語好きが理系進学を決心！～省エネ素材の研究開発に貢献～」、鶴助教は「『好き』エネルギーが導いた転職～きっかけはF1のTV観戦！～」、安達さんは「理系大学院生からのメッセージ～後悔しない進路対策～」として講演し、それぞれ女性ロールモデルとして自身の理工系進学選択のきっかけや魅力などについて中学生に熱くプレゼンを行いました。荒木助教は「これからの『進路』の話をしよう —ダイバーシティ入門講座—」として性別に関係なく、Society 5.0やDXが進む今後の世の中を生きていくための進路選択についての講演を行い、佐藤教授は「理工系出身者の活躍について～どんな就職ができてどんな職種に就けるの？～」として一般的な大学学部・大学院の仕組みや学部学科の構成、高度社会を支える製品の開発・製造に理工系出身者が大きく関わっていることなどについて講演を行いました。いずれの講演においても、聴講者からの質疑応答が活発になされ、関心の高さがうかがえました。

講演に引き続き、電気電子工学部門の木本 晃 准教授、福本 尚生 准教授と大学院生3名が受講者に対して「佐賀大学の先生と一緒に電子工作&実験にLet's Try! —脈の振動で光と音を操る! ?—」と題した体験実験を行いました。電子回路の結線とマイコンプログラムに基づき、受講者自身の脈動を電気信号に変換して脈の変化の様子を観察し、その信号を用いて光の点滅や音の鳴動を操る実験を行いました。受講者からは「普段触ることのない装置を使って、自身の脈が電気信号に変換できることに驚いた」などの感想を得ました。

本講演と実験は、内閣府の支援を受け、次世代を担う中学生やその保護者向けに「若手理工系人材による出前授業」として企画され、基山町が共催して開催されました。企画には機械工学部門の武富 紳也 准教授が中心的役割を担いました。当日の講演には50名程度、実験には30名が参加し、ネット上では知ることができない大学の女性ロールモデルから直接話を

聞いたり、大学進学後の進路や就職先の話に加えて、中学・高校では扱う機会がほぼない装置を用いて実験を行うことにより、理工系進路の魅力などを直接かつ具体的に聴講・体験してもらった機会となりました。



大竹 助教による講演の様子



鶴 助教による講演の様子



安達さん (M1) による講演の様子



荒木 助教による講演の様子



女性ロールモデルと荒木 助教



電子工作&実験の様子